

子どもの笑顔が輝き

勢いのある学校

No. 33 (H29. 12. 22発行) 文責 校長 福田雅也

清流

読書のすすめ

ある雨の日の夕方、美術学校に通う娘のために傘を持っていく母親。しかし、貧しい姿を見られたくないと思う年頃の娘の気持ちを思い、学校の隅で待つ。しばらくして、ちょうど窓から顔を覗かせた娘と視線が合う。娘は、みっともない姿の母親に来ないでほしいかのようなそぶりを。

それから一ヶ月。美術学校の絵の展覧会。娘から招待状をもらうが、自分が行けば娘が恥ずかしい思いをするのでは、との思いから学校へ行くのを躊躇するが…。あたりが暗くなりかけた夕方、意を決して学校へ行き、娘の展覧会の絵を見ると、そこには仕事着のエプロンに古びた履物で傘をさして娘を待つ、自分の姿が描かれていたのです。

そして、その絵のタイトルは『世界で一番美しい姿』と書かれていました。

これは、パク・インシクさんとイ・ミエさんの文と絵を、女優の笛木優子さんが訳した「世界でいちばん大切な思い」という本に載っている「世界で一番美しい姿」というお話を短く紹介したものです。この本は、韓国で170万部を越すベストセラーになっており、「忙しさに追われる日常の中で、忘れかけている大切な思いを、そっと取り出す宝石箱」と言われているそうです。他にも、「閉めない戸口」や「白い運動靴」等、心温まる物語が短編で書かれています。

全国学校図書館協議会は毎日新聞社と共同で、全国の小・中・高等学校の児童生徒の読書状況について毎年調査を行っています。今年度の調査結果では、一ヶ月の平均読書冊数が、小学生は11.1冊、中学生は4.5冊、高校生は1.5冊だそうです。中学生は3年連続で増加していますが、高校生は低い数値で大きな変化がなく、小学生は昨年に比べ0.3冊減少しています。小学生は10冊以上読んでいるようで、少し安心しますが、高校生の結果や小学生も減少していることを考えると少しさびしい気がします。もちろん、本校の子どもたちにも読書を呼びかけています。しかし、昨年度の同じ時期に比べ、貸し出し冊数が増えているとはいえ、十分とは言えない状況です。

いよいよ明日から冬休みです。子どもたちにとっては、特別な日々が続く、いろいろな人に会ったり伝統的な行事が体験できたりする期間です。そんな中ですが、お正月はゆっくりできる時間もあるのではないかと思います。冬休み期間中、1・2年生は2冊、3年生以上は3冊の本の貸し出しを行っておりますので、子どもたちが、ゆっくりできる時間に読書に取り組んでくれたらいいなと思っています。同時に、お正月くらい保護者の皆様も日々の忙しさから少し離れ、子どもたちと一緒に読書をされてみてはいかがでしょうか。上の本は短編ですので短い時間で読むことができそうな本です。また、温かい気持ちになり、心に栄養を与えてくれそうな本でもあります。親子読書のきっかけにでもなればと思います、紹介しました。

この冬休みが、読書に限らず、保護者の方々や子どもたちにとって素敵な毎日であることを願っております。

良いお年をお迎えください。